

各務原市 「まちづくりに関する市民意識調査」の 調査結果 【概要版】

【調査目的】

本調査は、市の施策への満足度やまちづくりへの意識を調査し、次期総合計画の策定の参考にすることを目的に実施しました。

【実施概要】

- ・調査方法 : 18 歳以上市民調査
各務原市在住の 18 歳以上から 3,000 人を無作為抽出
中高生調査
市立の 8 中学校から 3 年生の 1 クラス、市内に所在する県立の 3 高等学校の 3 年生または 2 年生から市内在住者 60 人/校を選出し実施
- ・調査期間 : 18 歳以上市民調査
令和 4 年 11 月 22 日 (火) ~12 月 5 日 (月)
中高生調査
令和 4 年 11 月 22 日 (火) ~12 月 13 日 (火)
- ・回答方法 : 18 歳以上市民調査
郵送又はウェブ回答
中高生調査
ウェブ回答
- ・回収結果 : 下表参照

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
18 歳以上市民	3,000 件	1,178 件	39.3%
中高生	500 件	422 件	84.4%

各務原市

「まちづくりに関する市民意識調査」

<結果の概要>

1 市民意識調査（18歳以上）結果の概要

(1) 回答者の属性について（問1～問8）

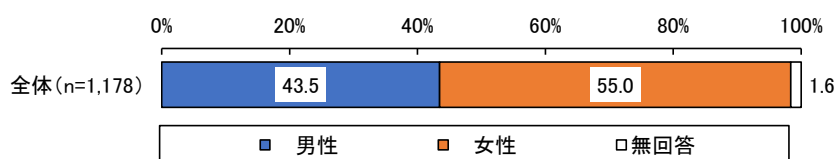
性別については、「男性」が43.5%、「女性」が55.0%となっています。

年齢については、「50歳代」が19.9%と最も高く、次いで「40歳代」が17.1%、「70歳以上」が16.0%となっています。

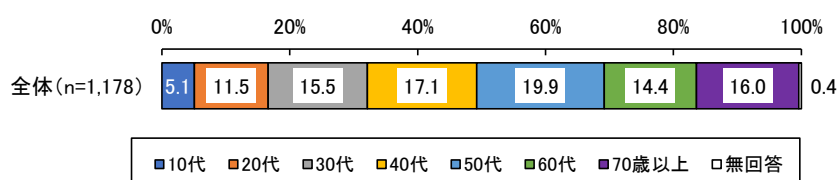
職業については、「会社員」が32.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が19.6%、「無職」が14.0%となっています。

地区については、「鵜沼地区」が36.3%と最も高く、次いで「那加地区」が24.1%、「蘇原地区」が20.5%となっています。

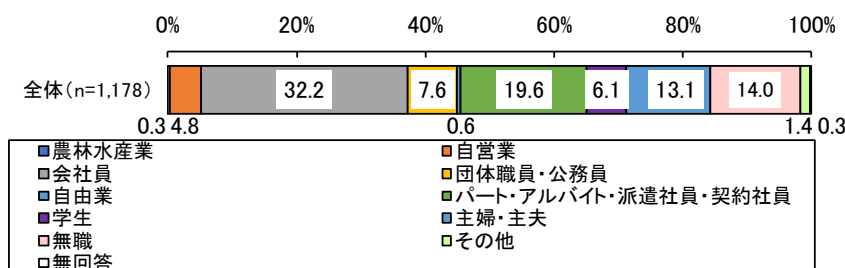
■ 性別



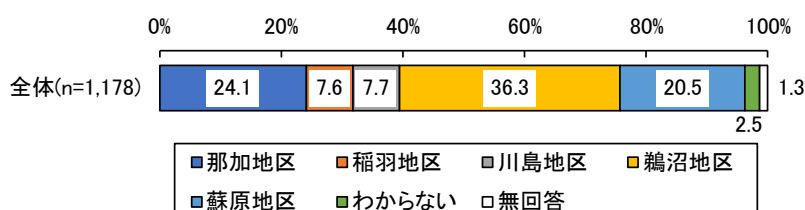
■ 年齢



■ 職業



■ 地区

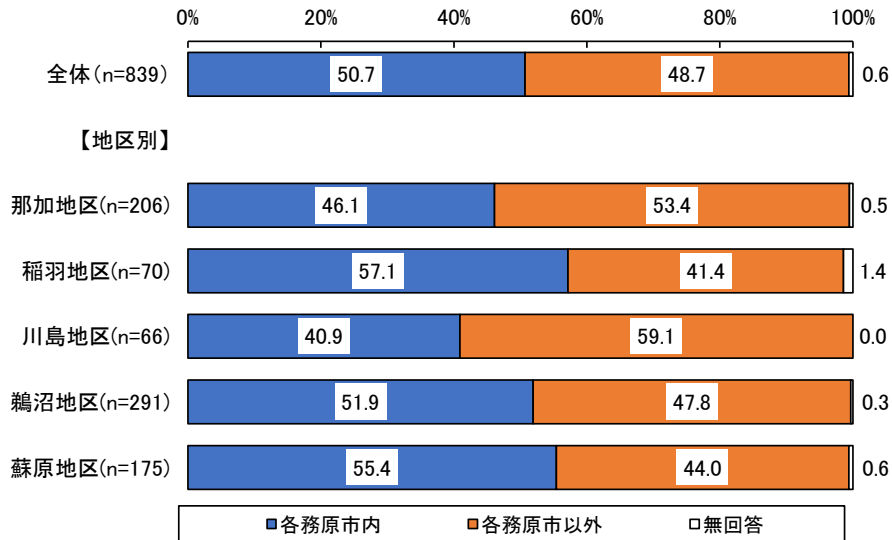


通勤（通学）先は、「各務原市内」が 50.7%、「各務原市外」が 48.7%となっています。また、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「各務原市内」が、那加地区、川島地区は「各務原市以外」が高くなっています。

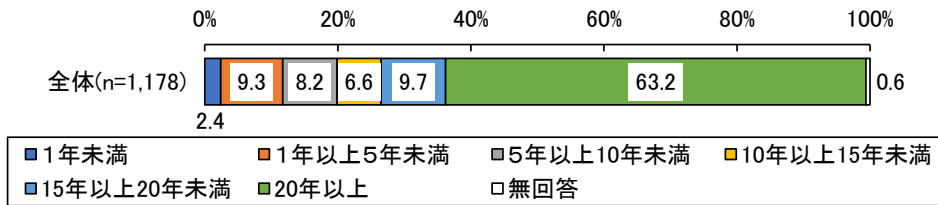
居住年数は、「20 年以上」が 63.2%と最も高くなっています。

家族構成は、「2 世代（親と子）」が 55.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が 22.2%、「3 世代（祖父または祖母と親と子）」が 11.5%となっています。また、10 歳代から 50 歳代は「2 世代（親と子）」が、60 歳代と 70 歳以上は「夫婦のみ」が最も高くなっています。

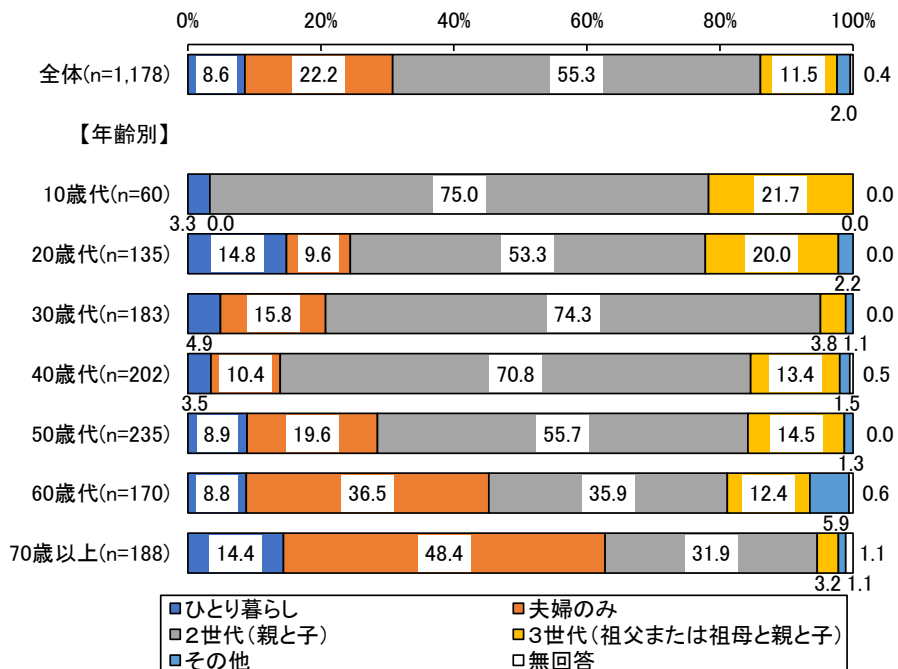
■ 通勤（通学）地



■ 居住年数



■ 家族構成

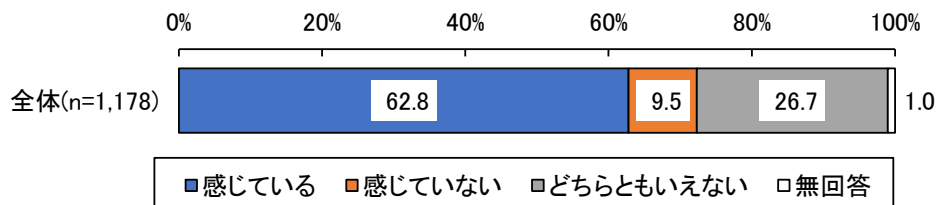


(2) まちへの親しみ度 (問9、問13)

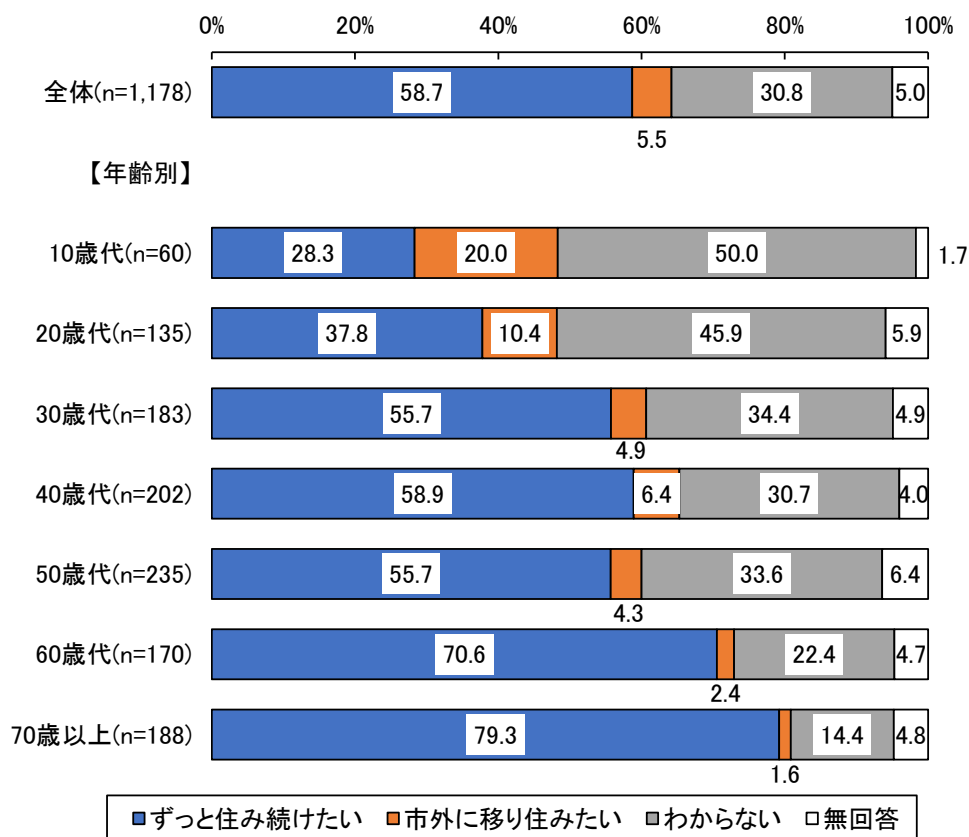
各務原市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じるかについては、「感じている」が 62.8%と最も高くなっています。

これからも各務原市に住みたいかについては、「ずっと住み続けたい」が 58.7%と最も高くなっています。また、60歳代、70歳以上は他の年代よりも「ずっと住み続けたい」が高くなっています。

■ 各務原市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じるか



■ これからも各務原市に住みたいか

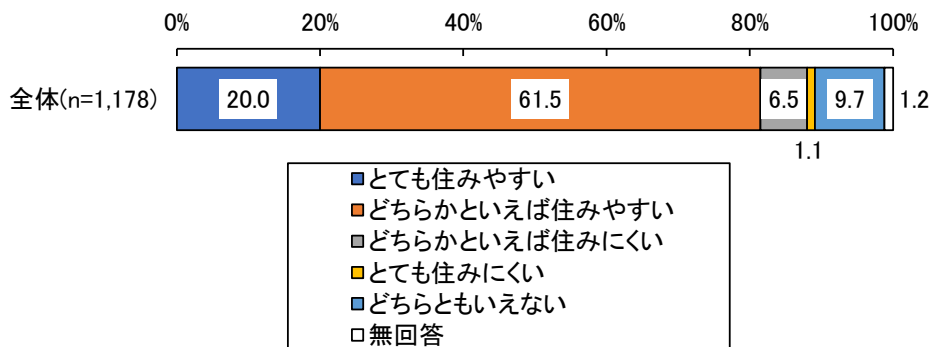


(3) 住みやすさについて (問10～問12)

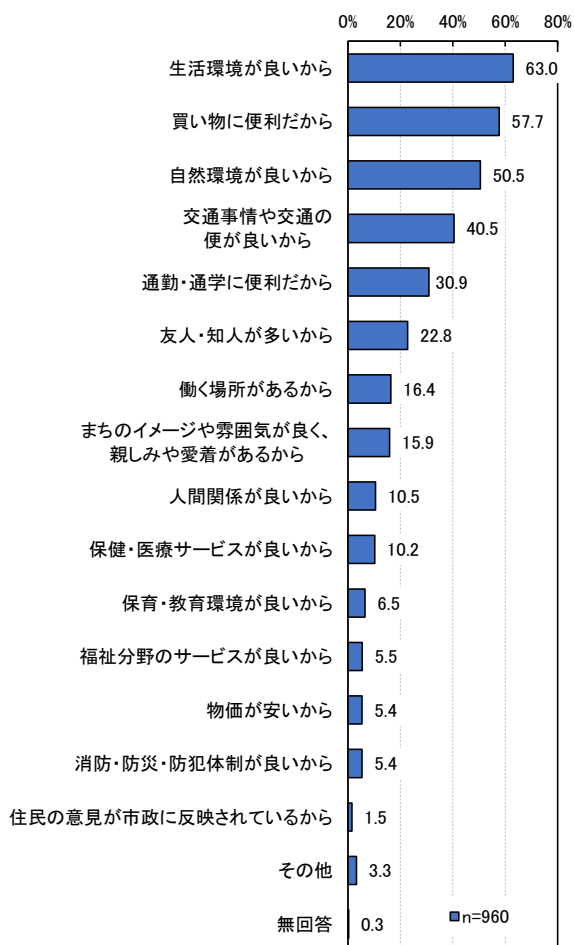
各務原市の住みやすさについてどのように感じるかについては、「とても住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせると81.5%となっています。

住みやすいと思う理由については、「生活環境が良いから」、「買い物に便利だから」、「自然環境が良いから」が高い割合となっています。一方で、住みにくいと思う理由については、「交通事情や交通の便が良くないから」、「買い物に不便だから」、「通勤・通学に不便だから」が高い割合となっています。

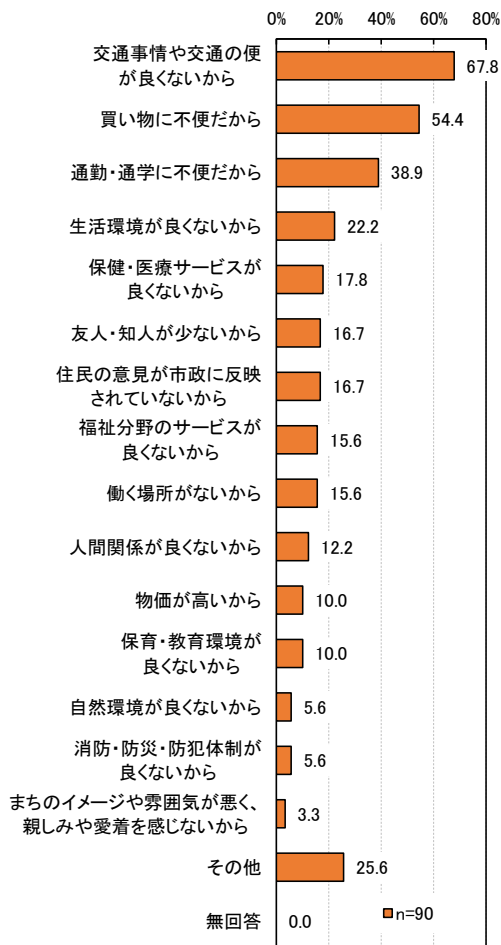
■ 住みよさ



■ 住みやすい理由



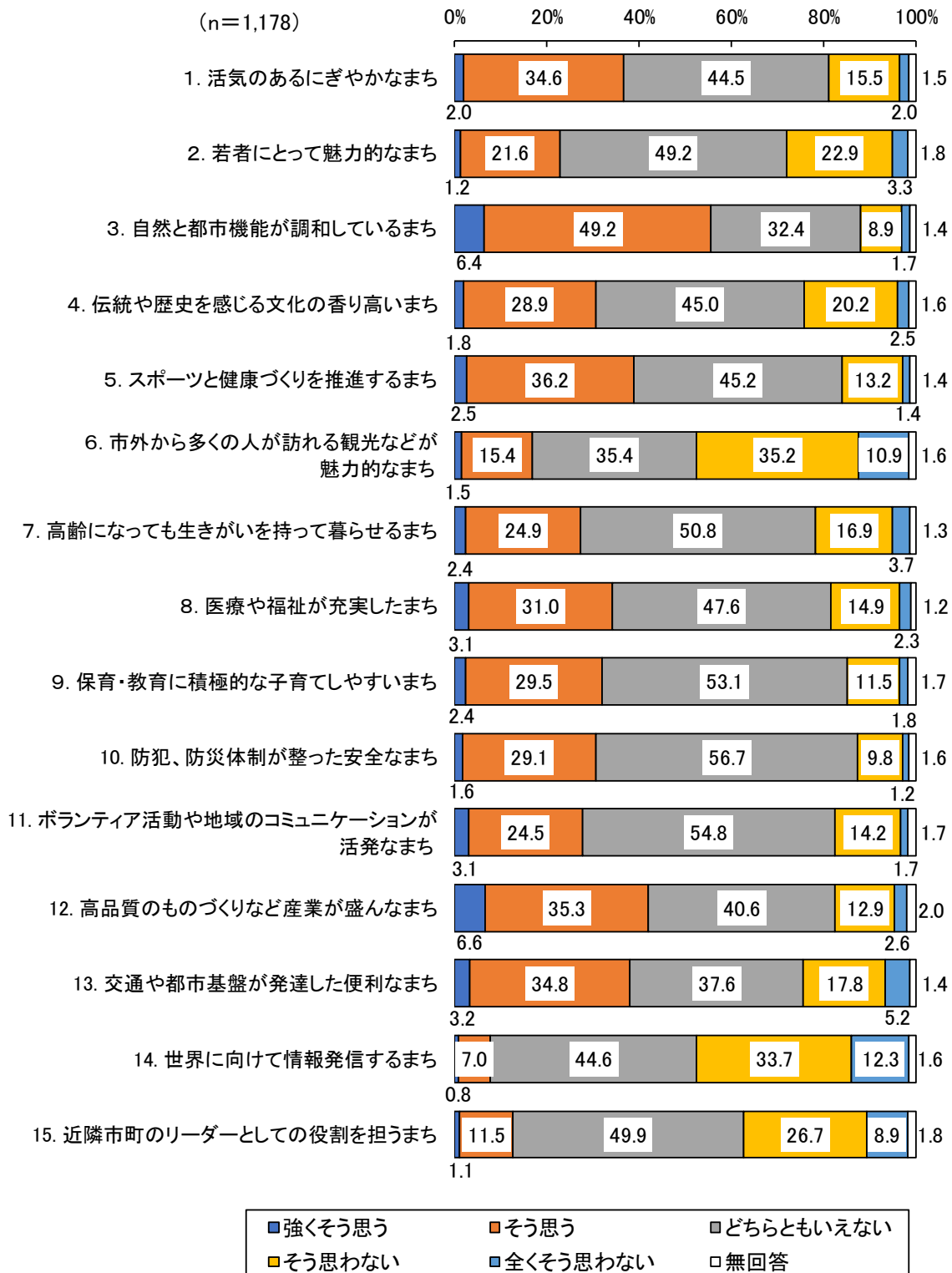
■ 住みにくい理由



(4) 各務原市のイメージについて (問15、問16)

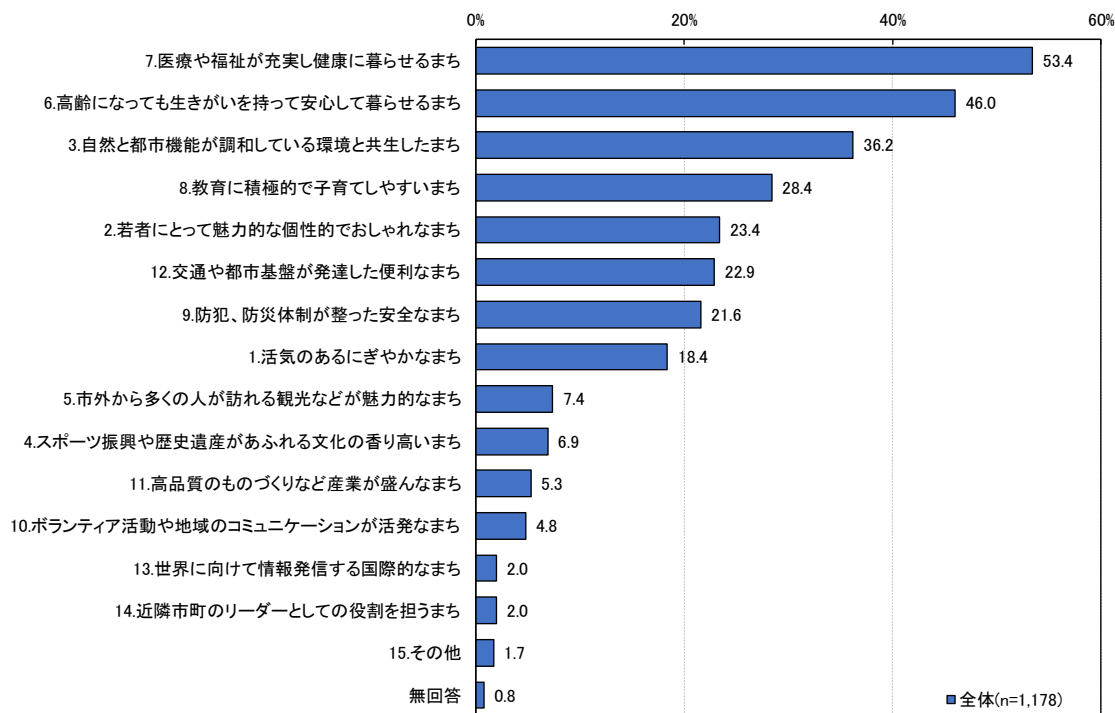
各務原市にどのようなイメージを持っているかについては、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合では、「3. 自然と都市機能が調和しているまち」、「5. スポーツと健康づくりを推進するまち」、「12. 高品質のものづくりなど産業が盛んなまち」が高い割合となっています。

■ 各務原市のイメージ



将来の都市の姿として、どのようなまちになってほしいと思うかについては、「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」、「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が高い割合となっています。20歳代と40歳代から60歳代は「7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が、70歳以上は「6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が最も高くなっています。

■ 将来の都市の姿

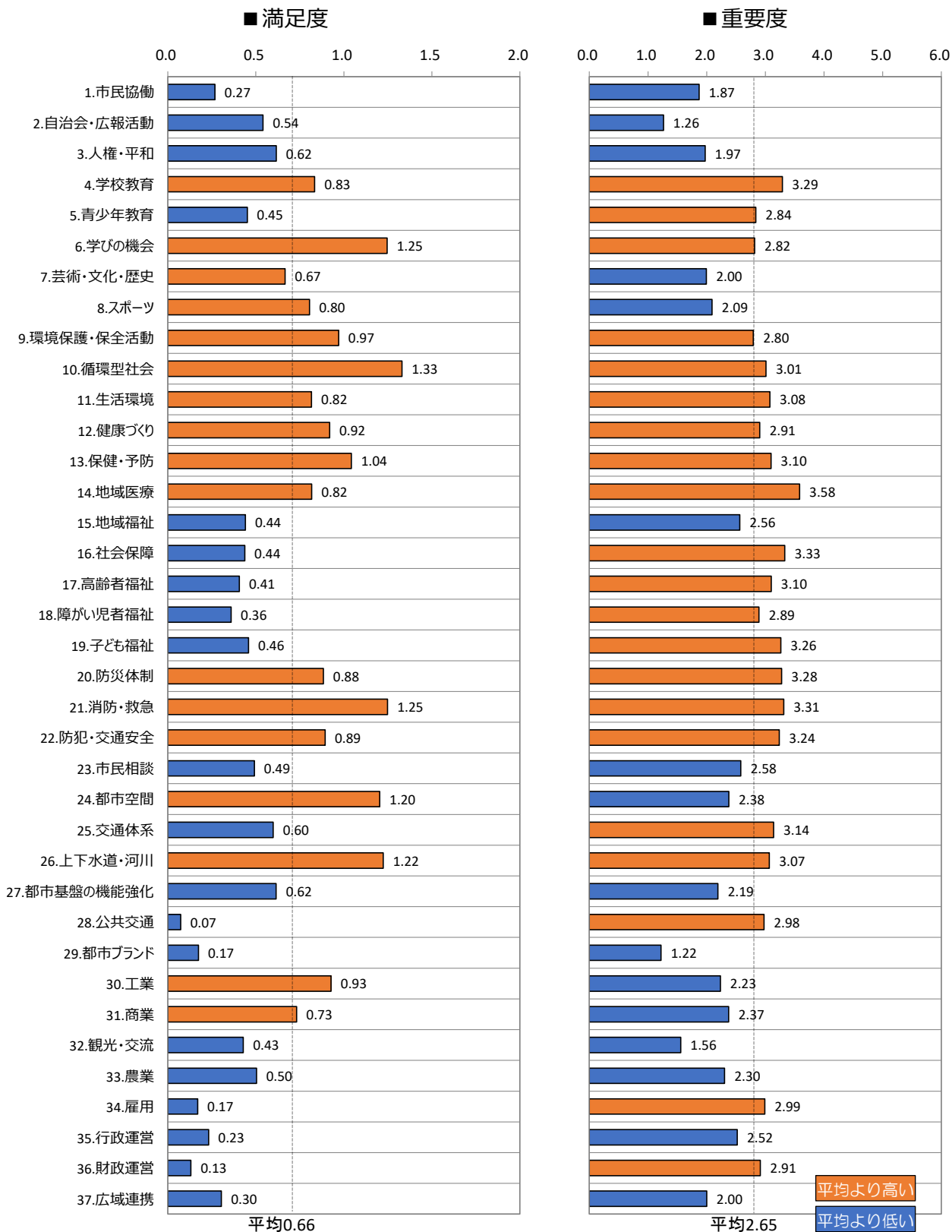


■ 将来の都市の姿・年齢別クロス集計

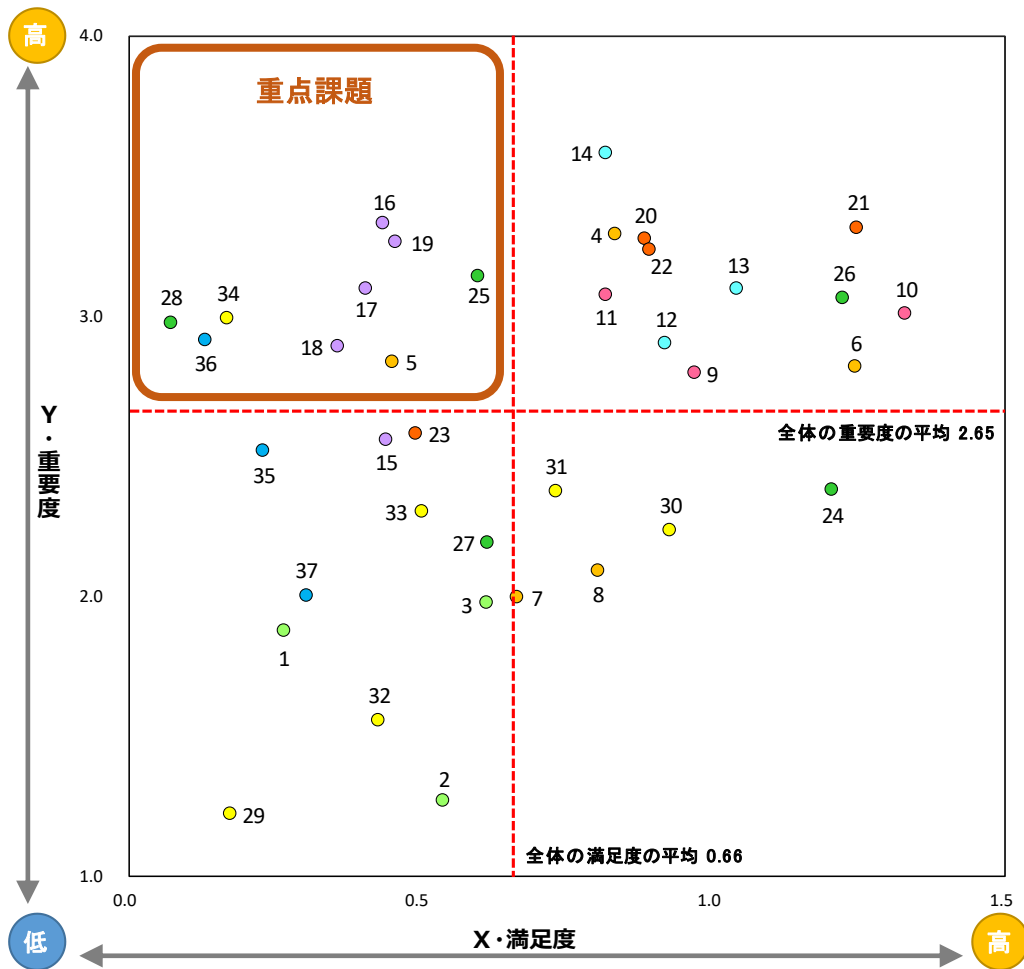
	1.活気のあるにぎやかなまち	2.若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち	3.自然と都市機能が調和している環境と共生したまち	4.スポーツ振興や歴史遺産があふれる文化の香り高いまち	5.市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち	6.高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち	7.医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち	8.教育に積極的で子育てしやすいまち
10歳代(n=60)	28.3%	46.7%	25.0%	6.7%	13.3%	26.7%	41.7%	15.0%
20歳代(n=135)	19.3%	35.6%	28.1%	5.9%	7.4%	23.0%	46.7%	42.2%
30歳代(n=183)	25.1%	23.5%	39.3%	9.3%	9.8%	33.3%	46.4%	50.8%
40歳代(n=202)	16.8%	24.3%	41.6%	7.4%	5.9%	45.5%	53.0%	31.2%
50歳代(n=235)	15.3%	16.6%	37.0%	6.8%	10.2%	53.2%	57.0%	23.0%
60歳代(n=170)	17.1%	17.1%	36.5%	4.7%	2.4%	60.0%	63.5%	18.8%
70歳以上(n=188)	15.4%	20.7%	35.6%	5.9%	5.9%	60.1%	55.9%	13.8%
	9.防犯、防災体制が整った安全なまち	10.ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち	11.高品質のものづくりなど産業が盛んなまち	12.交通や都市基盤が発達した便利なまち	13.世界に向けて情報発信する国際的なまち	14.近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち	15.その他	無回答
10歳代(n=60)	16.7%	1.7%	10.0%	28.3%	6.7%	1.7%	0.0%	0.0%
20歳代(n=135)	20.7%	1.5%	5.2%	25.2%	2.2%	2.2%	2.2%	0.7%
30歳代(n=183)	14.2%	4.4%	3.8%	19.1%	1.1%	2.7%	2.2%	0.0%
40歳代(n=202)	20.3%	4.5%	4.0%	22.8%	2.5%	2.0%	1.0%	1.0%
50歳代(n=235)	22.6%	7.2%	3.4%	25.1%	1.3%	0.9%	2.1%	0.4%
60歳代(n=170)	28.2%	5.3%	5.9%	21.2%	1.2%	1.8%	1.8%	1.2%
70歳以上(n=188)	24.5%	5.9%	8.5%	22.9%	2.7%	2.7%	1.6%	1.6%

(5) 施策の満足度、重要度 (問17)

市で実施する 37 の施策について、満足度と重要度の回答結果を点数化しました。「重点課題（満足度は低い、重要度は高い。今後の重点課題として検討が必要な施策）」は、青少年教育、社会保障、高齢者福祉、障がい児者福祉、子ども福祉、交通体系、公共交通、雇用、財政運営に関するものとなっています。



■ 満足度・重要度のポートフォリオ分析



- | | | | |
|-------------|------------|--------------|---------|
| 1 市民協働 | 12 健康づくり | 24 都市空間 | 35 行政運営 |
| 2 自治会・広報活動 | 13 保健・予防 | 25 交通体系 | 36 財政運営 |
| 3 人権・平和 | 14 地域医療 | 26 上下水道・河川 | 37 広域連携 |
| 4 学校教育 | 15 地域福祉 | 27 都市基盤の機能強化 | |
| 5 青少年教育 | 16 社会保障 | 28 公共交通 | |
| 6 学びの機会 | 17 高齢者福祉 | 29 都市ブランド | |
| 7 芸術・文化・歴史 | 18 障がい児者福祉 | 30 工業 | |
| 8 スポーツ | 19 子ども福祉 | 31 商業 | |
| 9 環境保護・保全活動 | 20 防災体制 | 32 観光・交流 | |
| 10 循環型社会 | 21 消防・救急 | 33 農業 | |
| 11 生活環境 | 22 防犯・交通安全 | 34 雇用 | |
| | 23 市民相談 | | |

(6) まちづくりの評価 (問18、問19)

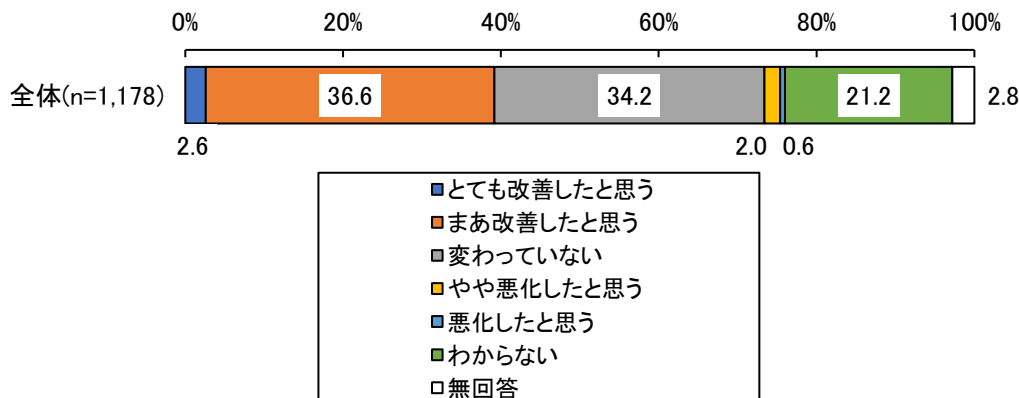
各務原市のまちづくりとして、ここ5年間で、特に改善した(=進展した)と思う取り組み、悪化した(=進んでいない)と思う取り組みについては以下のような結果となっています。学びの機会、学校教育、都市空間、スポーツ、交通体系は「改善・進展した」と評価されています。一方で、公共交通、交通体系、雇用、都市ブランド、農業、財政運営は「悪化・進んでいない」と評価されています。また、交通体系は、「改善・進展した」と「悪化・進んでいない」のどちらも上位に位置しています。

5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思うかについては、「まあ改善したと思う」が最も高く、次いで「変わっていない」が続いています。

■ここ5年間で、特に改善した(=進展した)と思う取り組み・悪化した(=進んでいない)と思う取り組み

順位	改善した(進展した)と思う取り組み		悪化した(進んでいない)と思う取り組み	
	項目名	割合	項目名	割合
1	学びの機会(生涯学習の充実、図書館サービスの充実等)	12.9%	公共交通(公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行等)	12.2%
2	学校教育(学校教育の充実、地域資源の活用、施設・設備の充実等)	11.8%	交通体系(幹線道路・生活道路の整備等)	10.5%
3	都市空間(魅力的な都市空間の形成、公園・緑地の保全等)	11.4%	雇用(多様な人材の育成、就労を支援する環境整備等)	9.4%
4	スポーツ(スポーツ機会の創出、スポーツ施設の充実等)	10.2%	都市ブランド(かかみがはらブランドの形成・発信等)	8.5%
5	交通体系(幹線道路・生活道路の整備等)	9.8%	農業(農地の保全と活用、地産地消の推進等)	6.9%
			財政運営(計画的な財政運営等)	6.9%

■5年前から改善したか



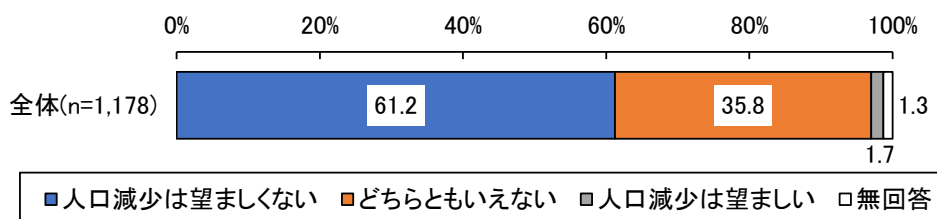
(7) 人口減少対策（問20～問23）

各務原市の人口が減少していくことについて、どのように思うかについては、「人口減少は望ましくない」が最も高く、次いで「どちらともいえない」が続いています。

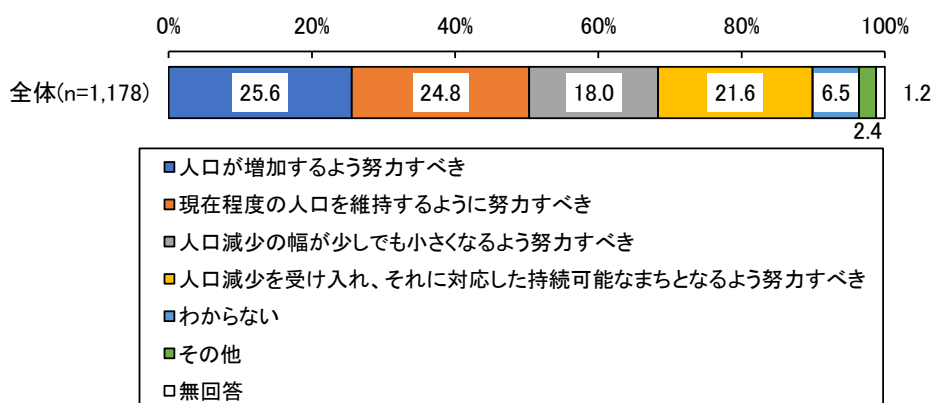
人口の減少に対して、市はどのように取り組むべきだと思うかについては、「人口が増加するよう努力すべき」が最も高く、次いで「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」が続いています。

地域で人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）ことがあるかについては、「高齢者のみ世帯の増加」、「子どもの減少」、「空き家の増加」が高い割合となっています。

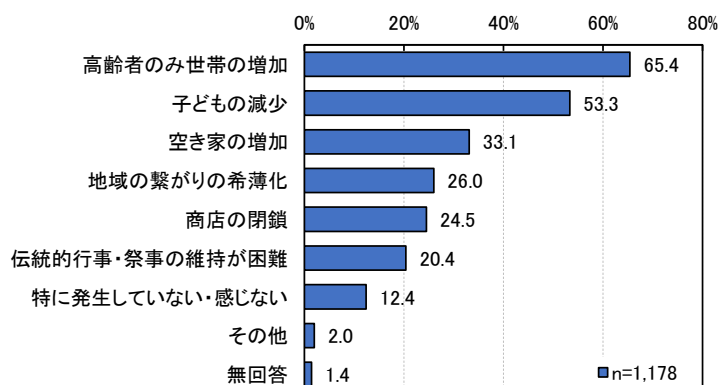
■ 各務原市が人口減少していくことに対する思い



■ 各務原市の人口減少対策への取り組み

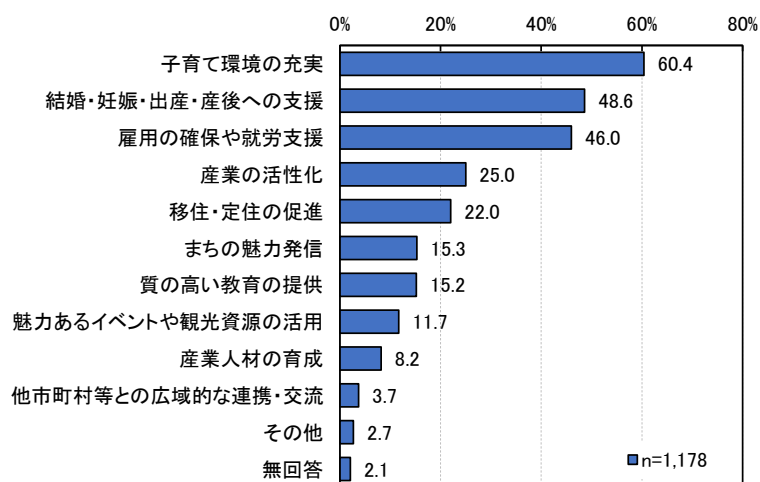


■ 地域での人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）こと



人口減少対策としてどのような施策が有効だと思うかについては、「子育て環境の充実」、「結婚・妊娠・出産・産後への支援」、「雇用の確保や就労支援」が高い割合となっています。

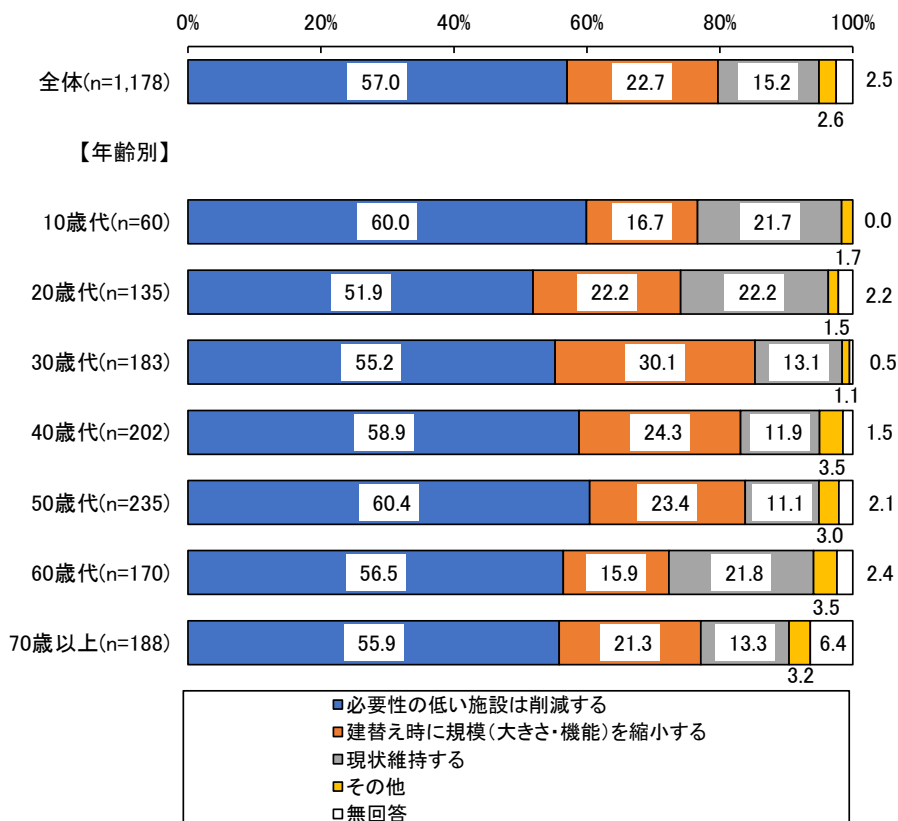
■ 有効だと思う人口減少対策



(8) 今後の公共施設の在り方について (問24～問26)

今後の公共施設の在り方について思うことについて、「必要性の低い施設は削減する」が最も高く、次いで「建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する」、「現状維持する」が続いています。20 歳代、60 歳代は他の年代よりも「現状維持する」が高く、30 歳代は「建替え時に規模（大きさ・機能）を縮小する」が高くなっています。

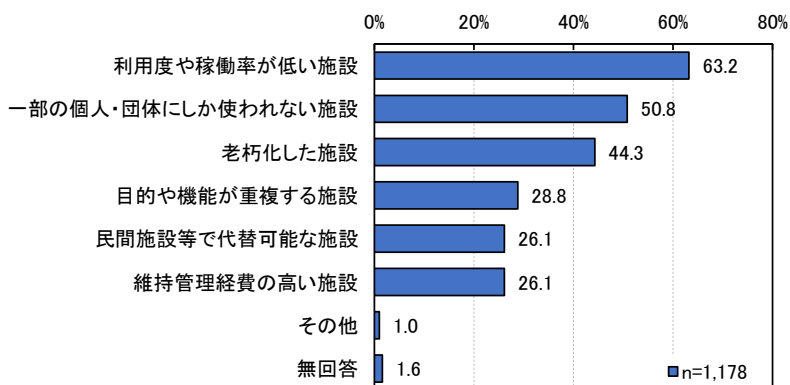
■ 今後の公共施設の在り方



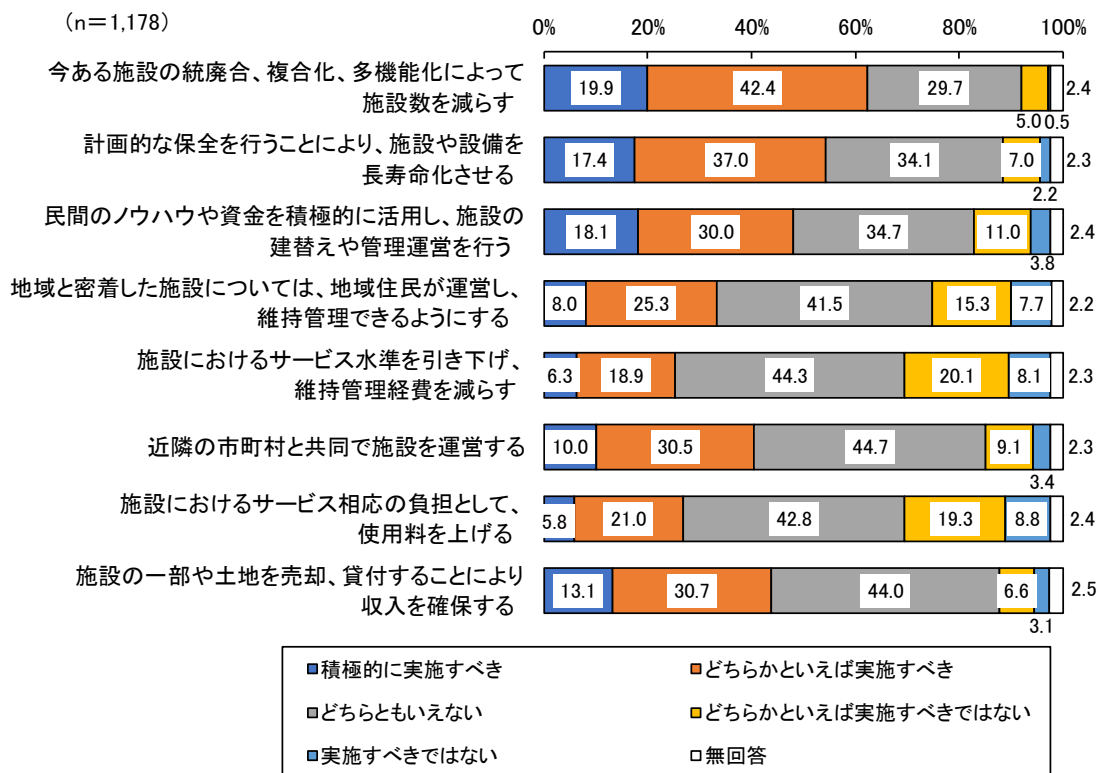
どのような施設から削減していけば良いと思うかについては、「利用度や稼働率が低い施設」、「一部の個人・団体にしか使われない施設」、「老朽化した施設」が高い割合となっています。

それぞれの方策に対する考えについては、「積極的に実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」を合わせた割合は、「今ある施設の統廃合、複合化、多機能化によって施設数を減らす」が最も高く、次いで「計画的な保全を行うことにより、施設や設備を長寿命化させる」、「民間のノウハウや資金を積極的に活用し、施設の建替えや管理運営を行う」が続いています。

■ どのような施設から削減していけば良いと思うか



■ それぞれの方策に対する考え

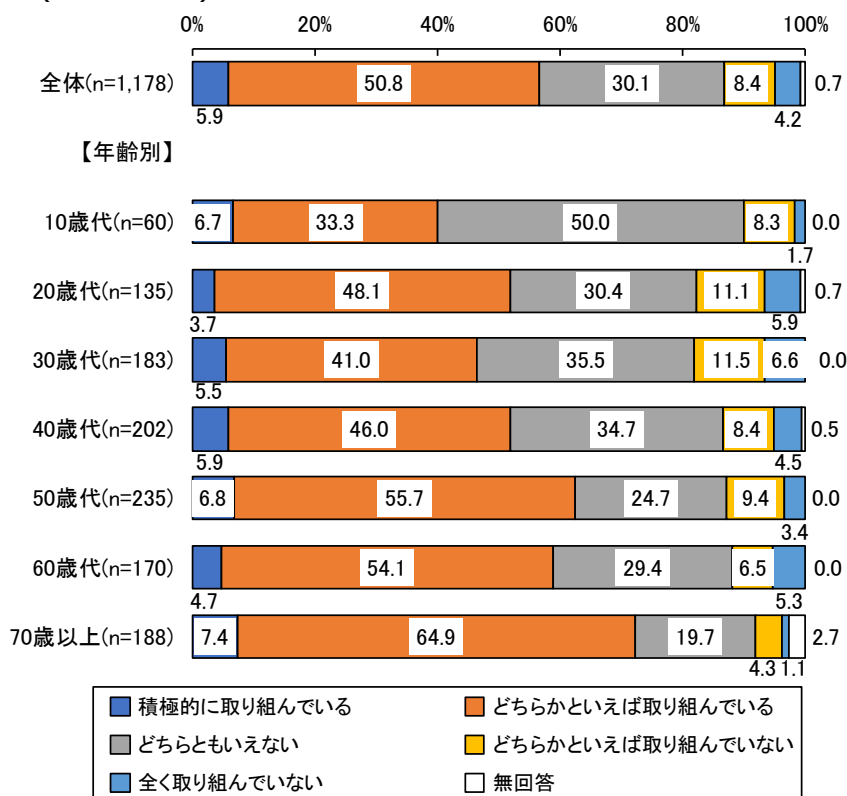


(9) 環境対策について (問27~問35)

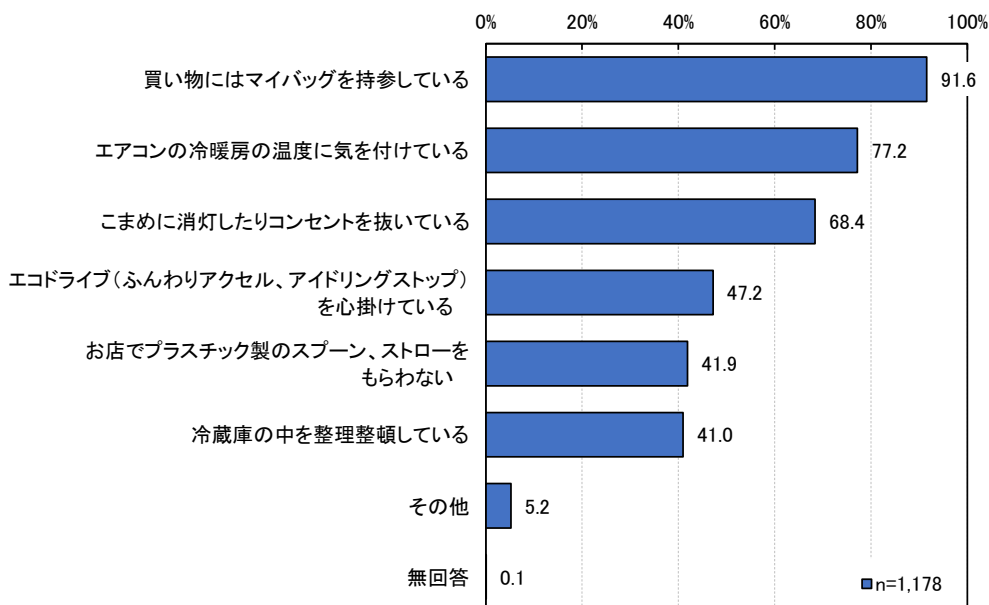
家庭でできる CO2(二酸化炭素)削減に積極的に取り組んでいるかについては、「どちらかといえば取り組んでいる」が最も高くなっています。また、70 歳以上は他の年代よりも「どちらかといえば取り組んでいる」が高くなっています。

どのような取り組みをしているかについては、「買い物にはマイバッグを持参している」、「エアコンの冷暖房の温度に気を付けている」が高い割合となっています。

■ 家庭でできる CO2(二酸化炭素)削減に積極的に取り組んでいるか



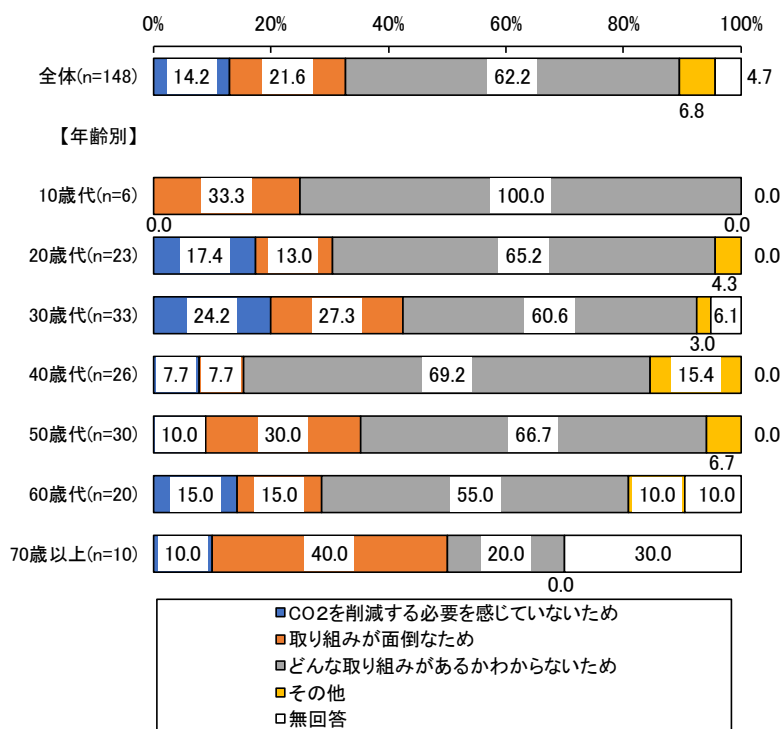
■ どのような取り組みをしているか



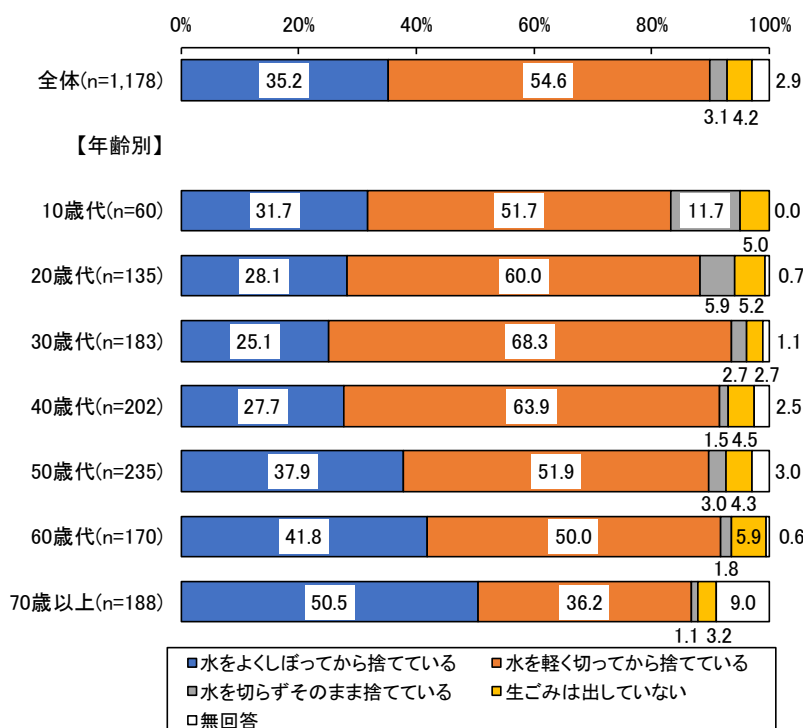
取り組んでいない理由については、「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高く、次いで「取り組みが面倒なため」が続いています。また、70歳以上では「取り組みが面倒なため」、その他の年代では「どんな取り組みがあるかわからないため」が最も高くなっています。

生ごみを捨てる時の水切りについては、「水を軽く切ってから捨てている」が最も高く、次いで「水をよくしぼってから捨てている」が続いています。70歳以上では「水をよくしぼってから捨てている」、その他の年代では「水を軽く切ってから捨てている」が最も高くなっています。

■ 取り組んでいない理由



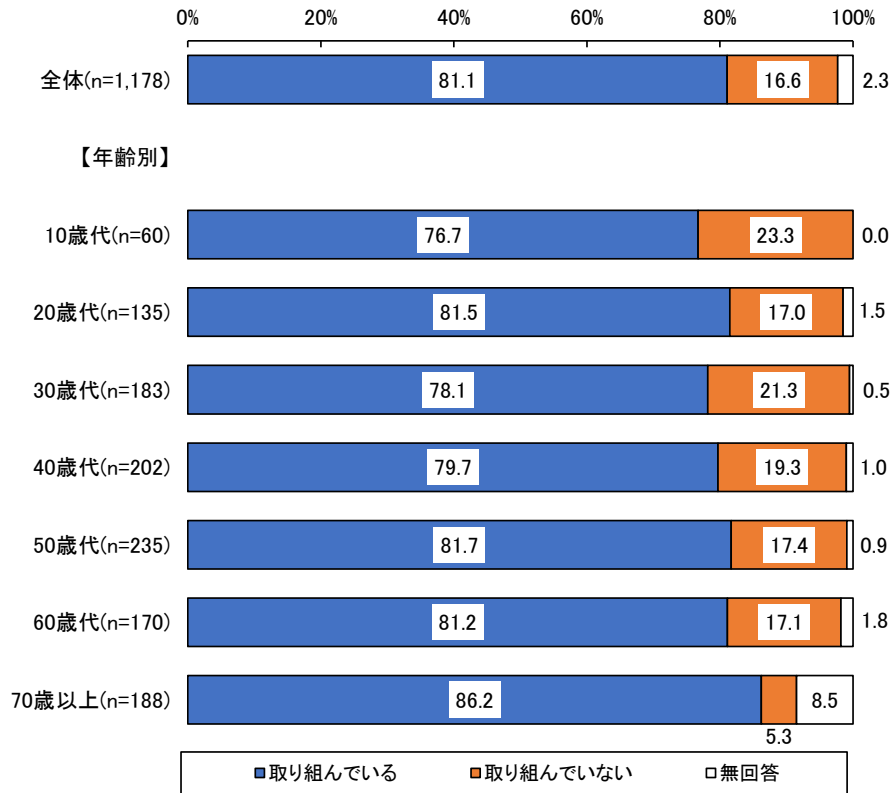
■ 生ごみを捨てる時の水切りについて



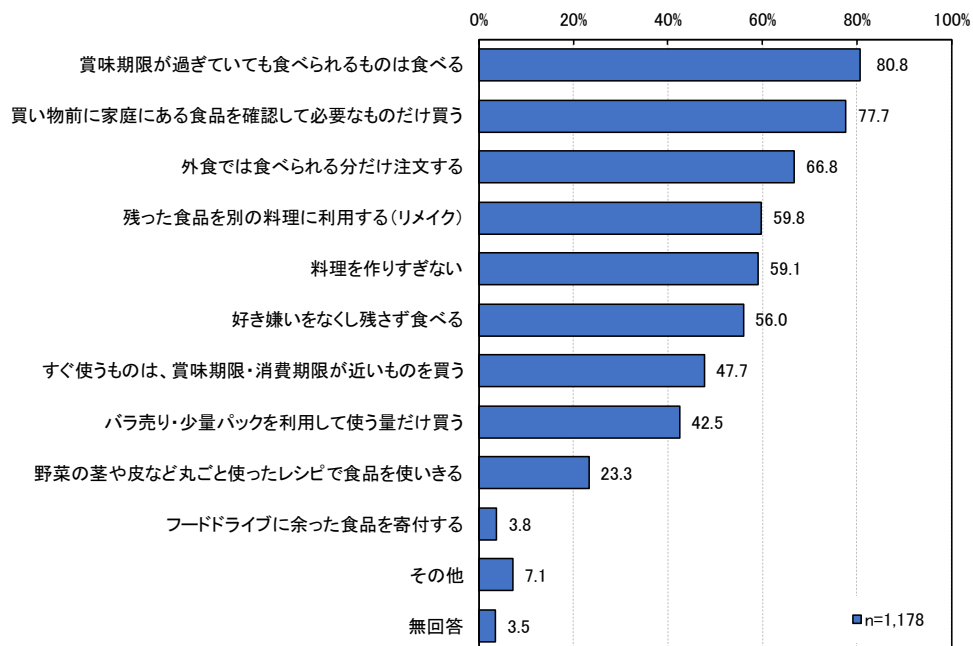
食品ロスを意識して、その削減に取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が高くなっています。全年代で「取り組んでいる」が高くなっており、70歳以上で特に高くなっています。

食品ロスを削減するために取り組んでいることについては、「賞味期限が過ぎていても食べられるものは食べる」、「買い物前に家庭にある食品を確認して必要なものだけ買う」が高い割合となっています。

■ 食品ロスを意識して、その削減に取り組んでいるか



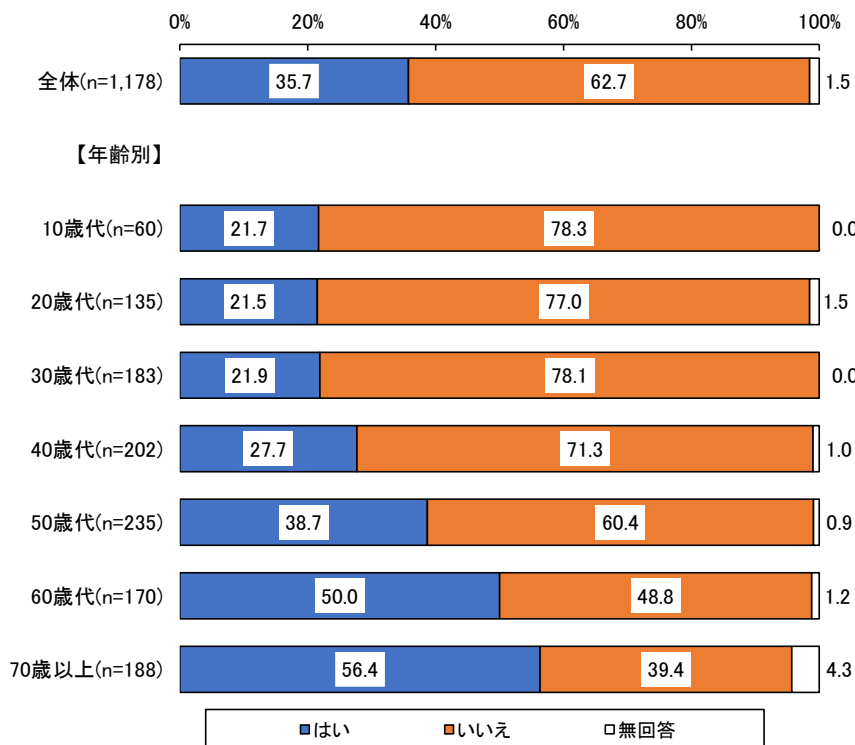
■ 食品ロスを削減するために取り組んでいること



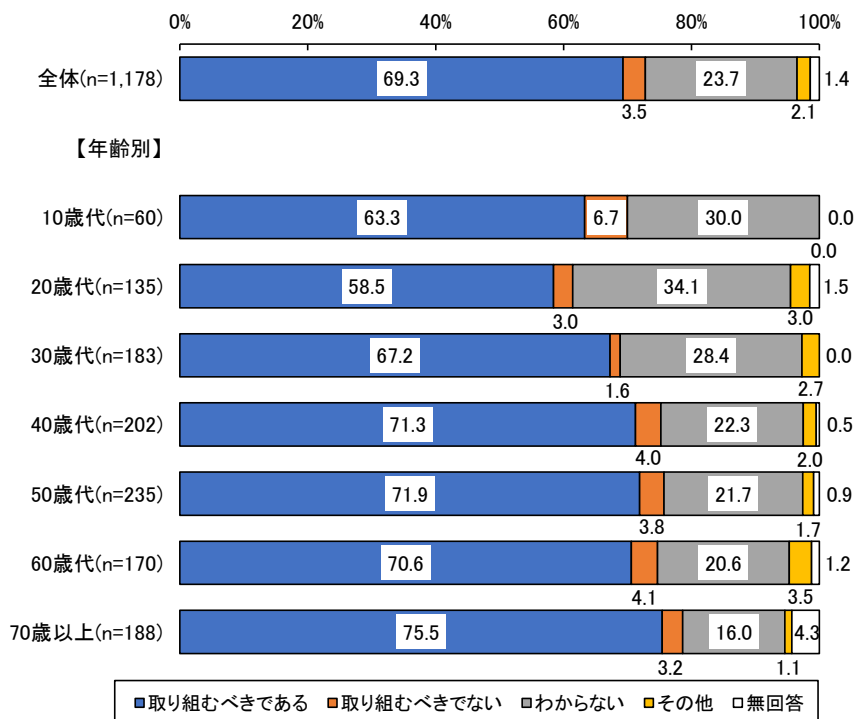
残骨灰には金・銀・プラチナ・パラジウム等の有価物が含まれていることを知っているかについては、「いいえ」が高くなっています。また、10歳代から50歳代で「いいえ」が高く、60歳代、70歳以上で「はい」が高くなっています。

残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収益を公益（斎場の運営経費など）のために活用することをどう思うかについて、「取り組むべきである」が高くなっています。また、70歳以上では特に高くなっています。

■ 残骨灰には金・銀・プラチナ・パラジウム等の有価物が含まれていることを知っているか



■ 残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収益を公益のために活用することをどう思うか

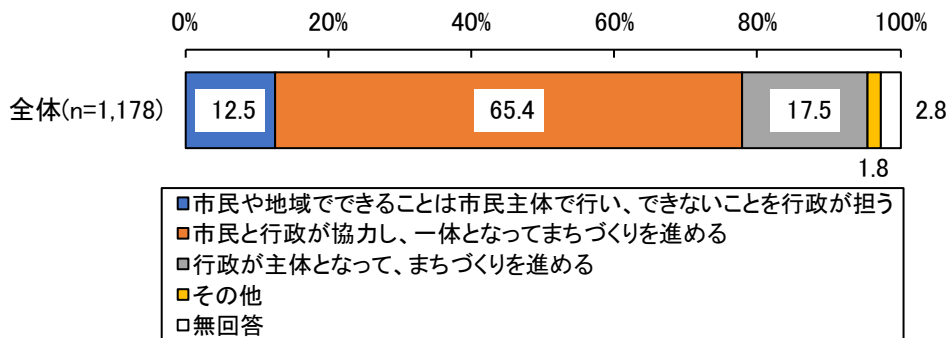


(10) 協働のまちづくりについて (問36～問39)

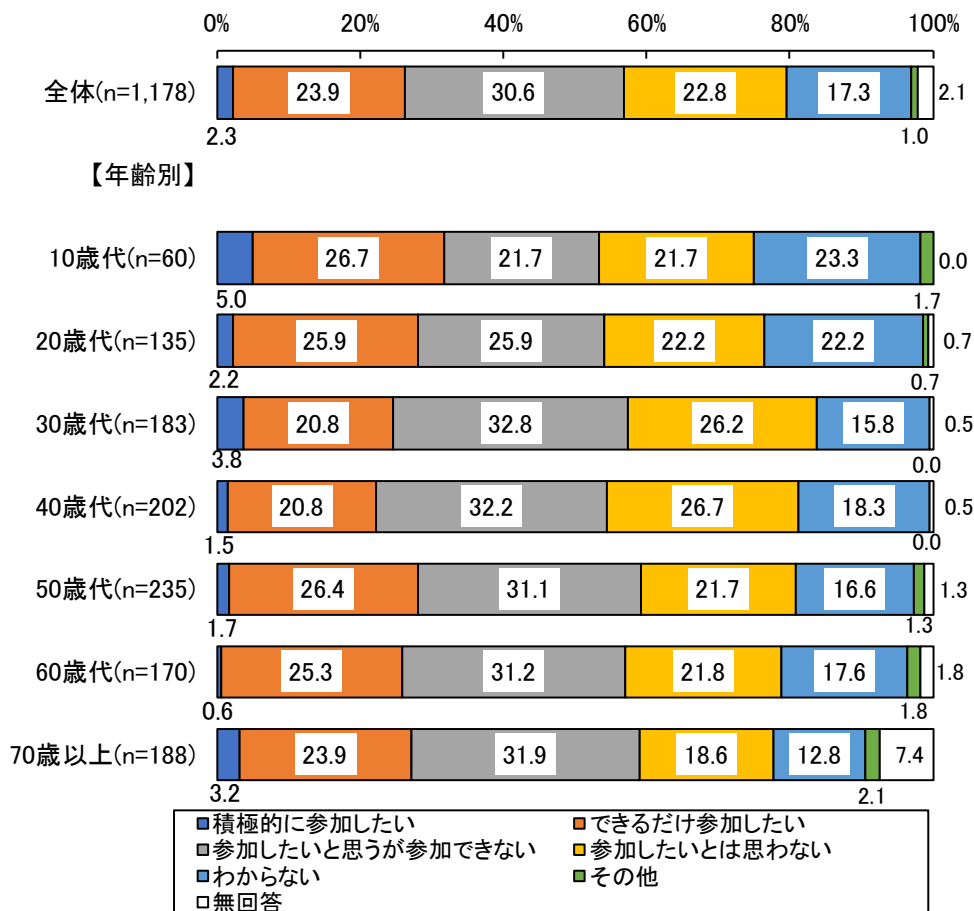
各務原市のまちづくりを進めていくとき、市民と行政との関係はどうあるべきだと思うかについては、「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高く、次いで「行政が主体となって、まちづくりを進める」が続いています。

まちづくり活動に対する市民参加の機会がある場合、参加したいと思うかについては、「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。また、10歳代は「できるだけ参加したい」が、30歳代以上は「参加したいと思うが参加できない」が最も高く、20歳代は「できるだけ参加したい」と「参加したいと思うが参加できない」が同率で最も高くなっています。

■ 各務原市のまちづくりを進めていくとき、市民と行政との関係はどうあるべきだと思うか



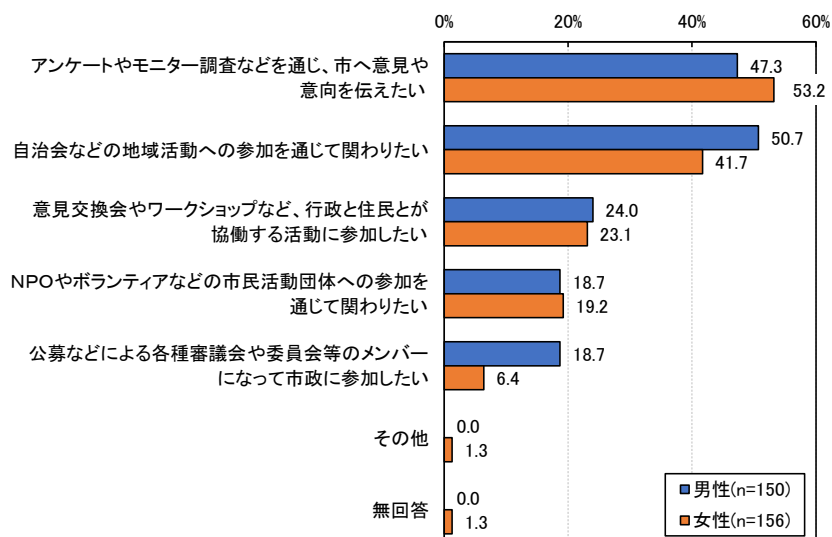
■ まちづくり活動に対する市民参加の機会がある場合、参加したいと思うか



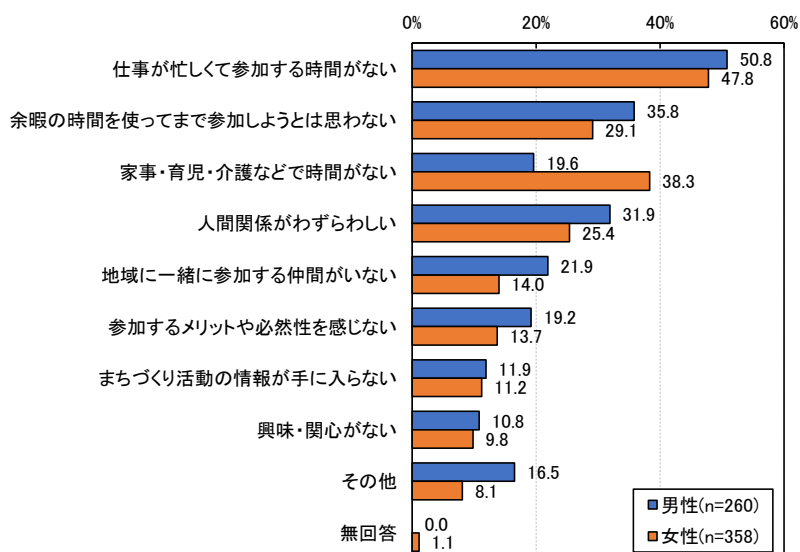
どのような形で参加したいかについては、男性は「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が、女性は「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が最も高くなっています。

参加できない、または参加したいと思わないと思う理由については、男女とも「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっており、「家事・育児・介護などで時間がない」は、女性が男性よりも高くなっています。

■ どのような形で参加したいか



■ 参加できない、または参加したいと思わないと思う理由

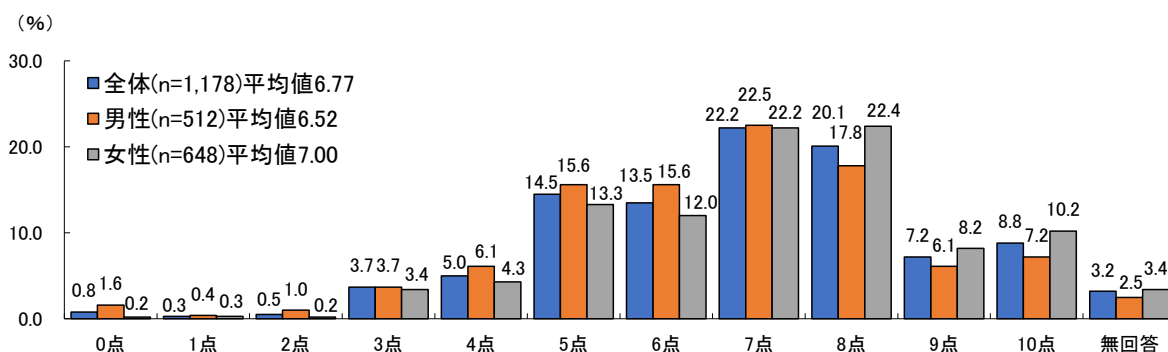


(11) 幸福度について (問40～問41)

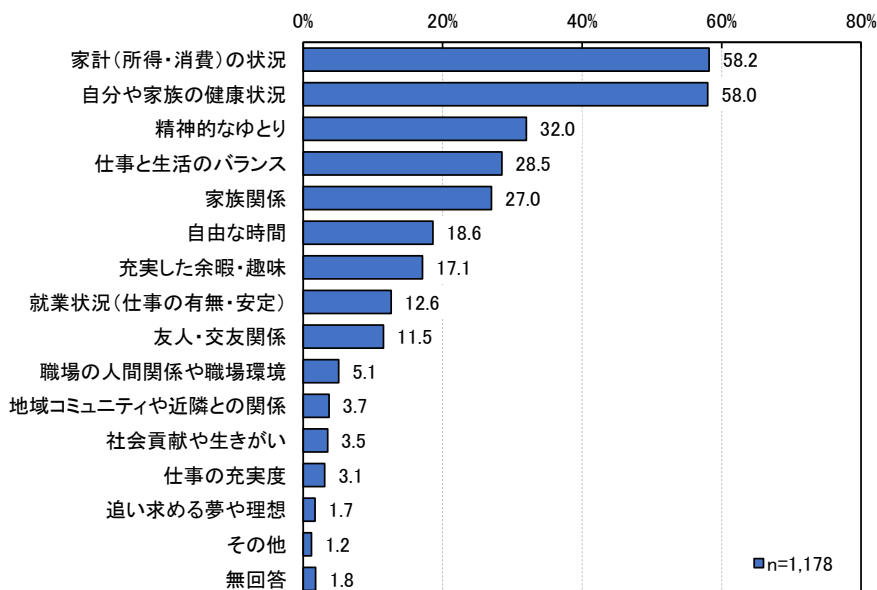
現在、どの程度幸せかについては、「7点」が最も高く、次いで「8点」が続いています。平均値は6.77となっています。男性は「7点」が、女性は「8点」が最も高く、平均値は男性が6.52で、女性が7.00となっています。

幸せであるために重要だと思うことについて、「家計（所得・消費）の状況」、「自分や家族の健康状況」が高い割合となっています。

■ 現在、どの程度幸せか



■ 幸せであるために重要だと思うことについて



2 市民意識調査（中高生）結果の概要

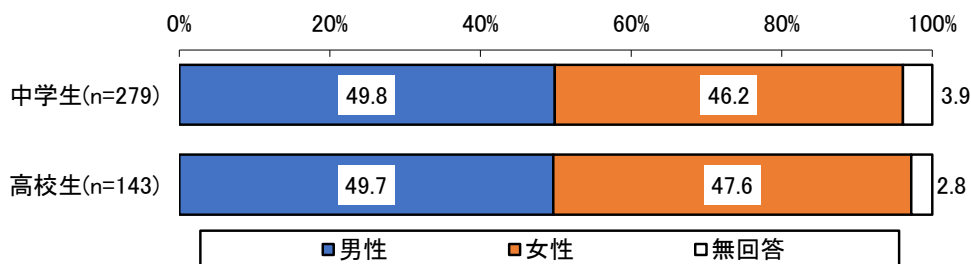
（1）回答者の属性について（問1、問3、問4）

性別については、中学生では「男性」が49.8%、「女性」が46.2%となっており、高校生では「男性」が49.7%、「女性」が47.6%となっています。

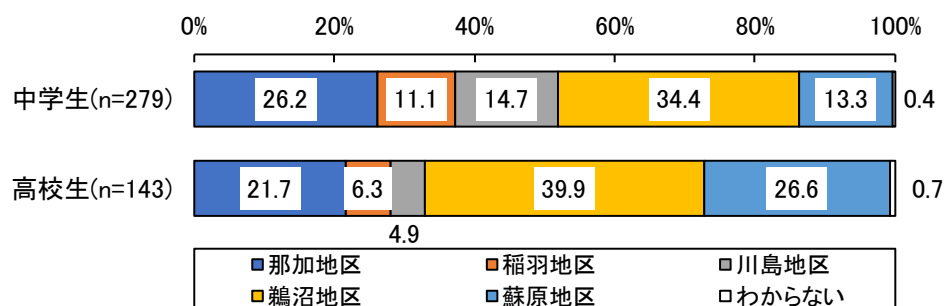
地区については、中学生、高校生ともに「鵜沼地区」が最も高くなっています。

家族構成については、中学生、高校生ともに「2世代（あなたと親）」が最も高くなっています。

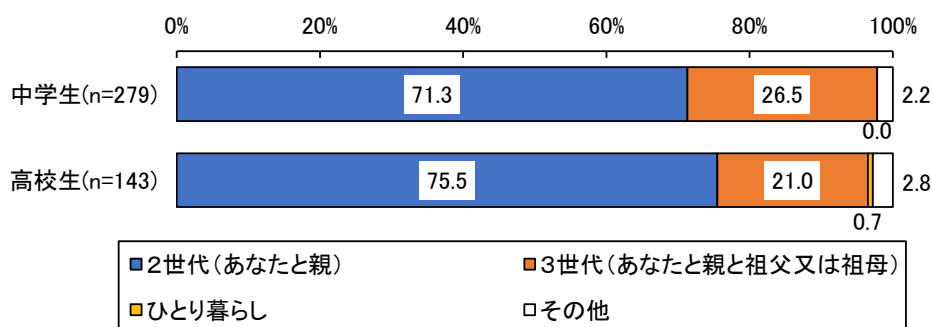
■性別



■地区別



■家族構成

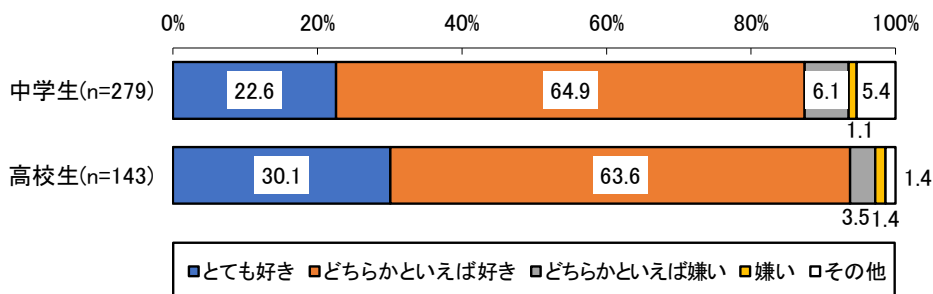


(2) 愛着や住みやすさについて (問5～問11)

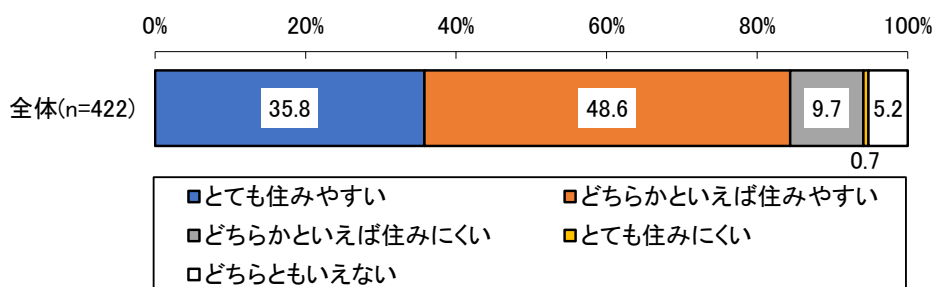
各務原市のことが好きかについては、「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が、中学生は87.5%、高校生は93.7%となっています。

各務原市の住みやすさをどのように感じるかについては、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が84.4%となっています。

■ 各務原市のことが好きか



■ 各務原市の住みやすさをどのように感じるかについて



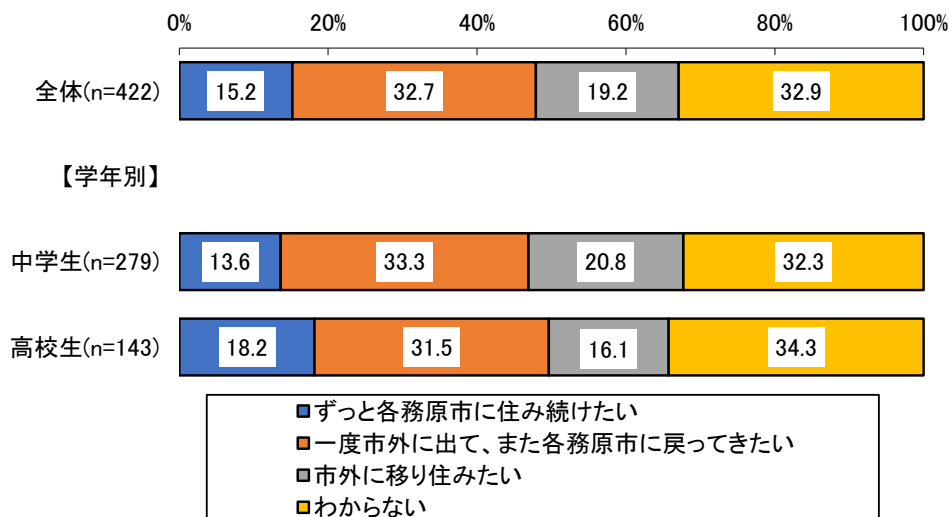
住みやすいと思う理由については、中学生では「友達や知り合いが多いから」、「生活環境が良いから」、「自然環境が良いから」が高い割合となっており、高校生では「生活環境が良いから」、「友達や知り合いが多いから」、「自然環境が良いから」が高い割合となっています。

■ 住みやすいと思う理由

順位	中学生の住みやすい理由		高校生の住みやすい理由	
	項目名	割合	項目名	割合
1	友達や知り合いが多いから	53.5%	生活環境が良いから	61.1%
2	生活環境が良いから	50.4%	友達や知り合いが多いから	41.3%
3	自然環境が良いから	49.6%	自然環境が良いから	32.5%
4	買い物に便利だから	28.7%	買い物に便利だから	31.7%
5	交通事情や交通の便が良いから	25.7%	交通事情や交通の便が良いから	29.4%

将来、各務原市に住み続けたいと思うかについては、「わからない」が最も高く、次いで「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が続いています。また、中学生では「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が、高校生では「わからない」が最も高くなっています。

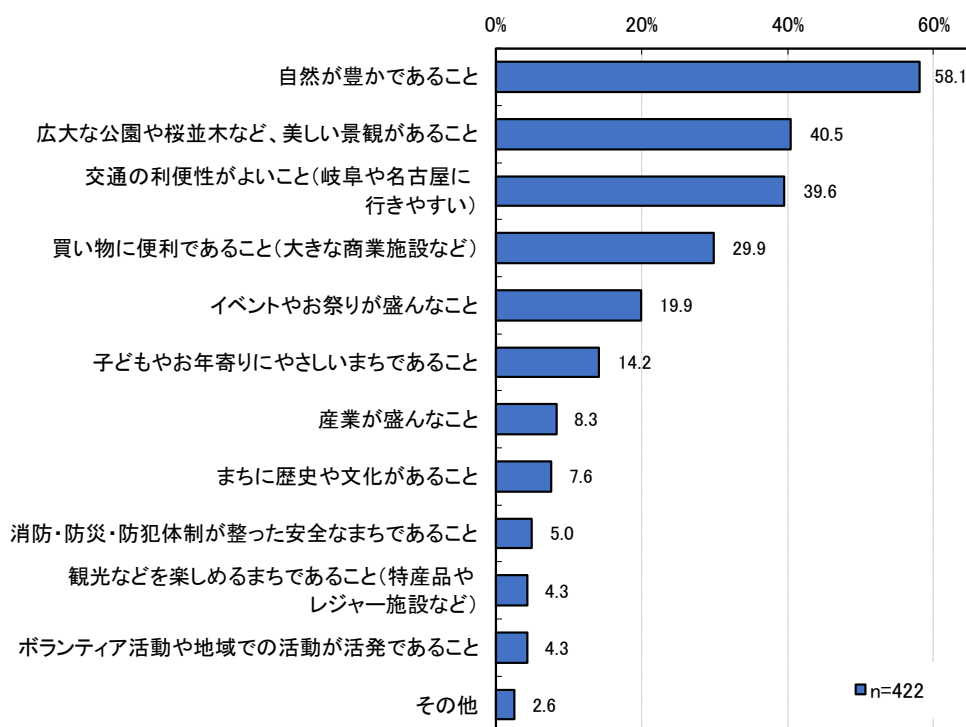
■ 将来、各務原市に住み続けたいと思うか



(3) まちの魅力について (問12)

各務原市のまちとしての魅力はどのようなことかについては、「自然が豊かであること」、「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」、「交通の利便性がよいこと(岐阜や名古屋に行きやすい)」が高い割合となっており、自然や利便性をまちの魅力として高く評価しています。

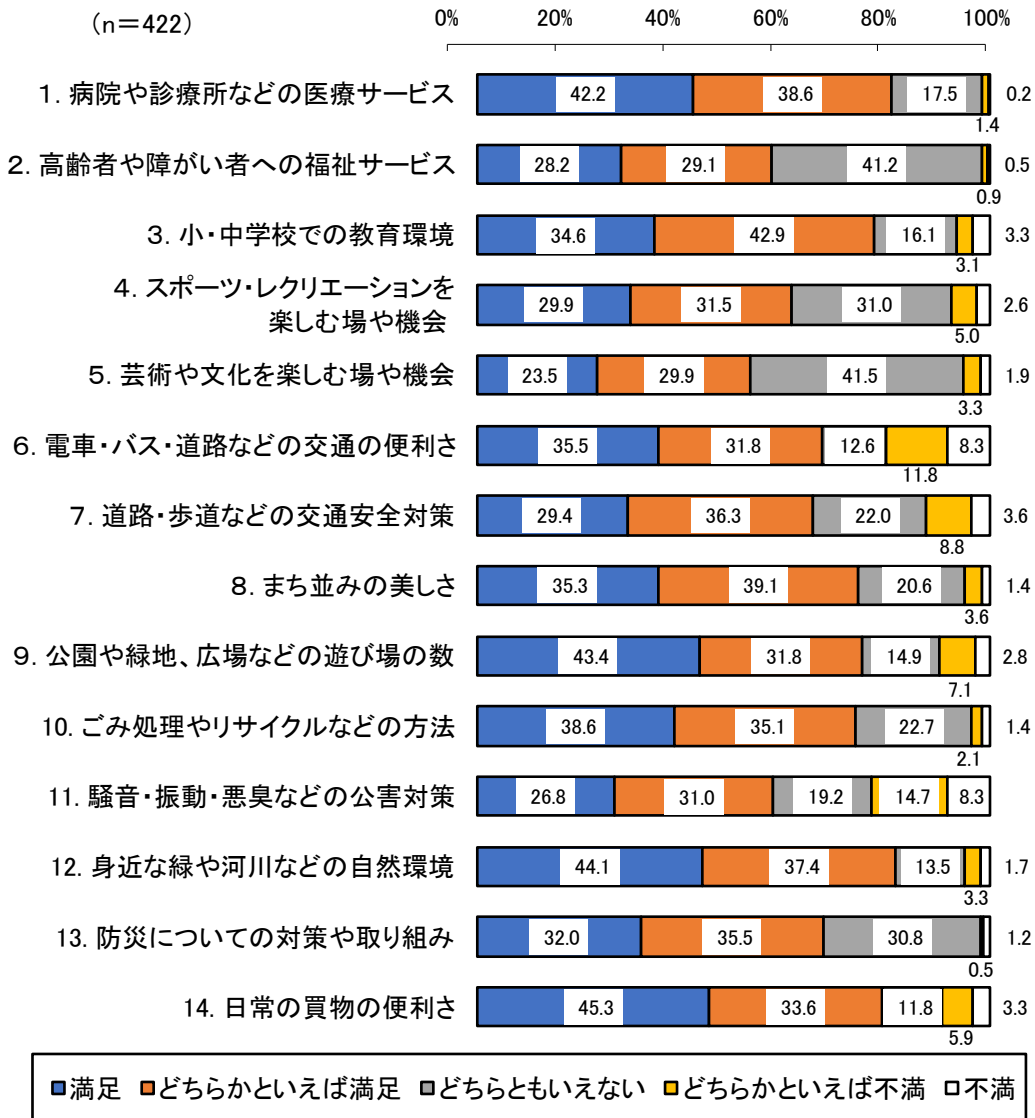
■ 各務原市のまちとしての魅力はどのようなことか



(4) まちの満足度、重要度 (問13、問14)

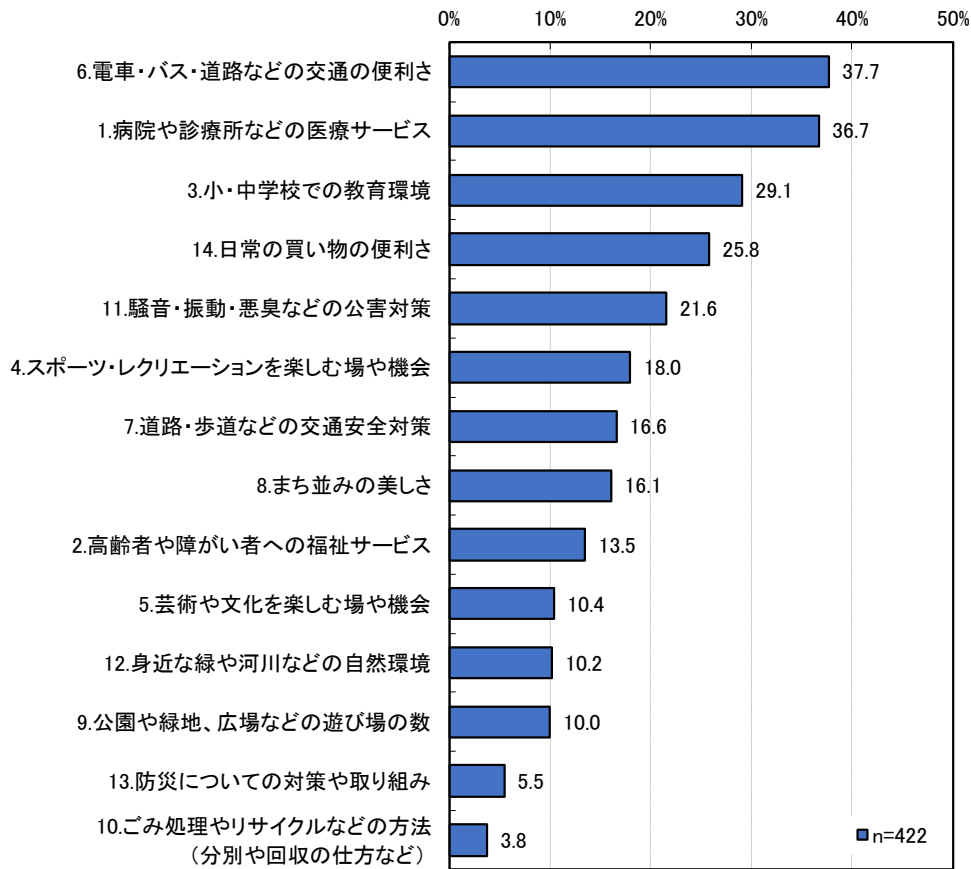
身近な生活環境について、どの程度満足しているかについては、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が高い項目は、「1.病院や診療所などの医療サービス」、「12.身近な緑や河川などの自然環境」、「14.日常の買い物の便利さ」となっています。一方で、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた割合が高い項目は「11.騒音・振動・悪臭などの公害対策」となっています。

■ 満足度



生活環境がより良くなるために、特に重要だと思う項目については、「6.電車・バス・道路などの交通の便利さ」、「1.病院や診療所などの医療サービス」、「3.小・中学校での教育環境」が高い割合となっています。

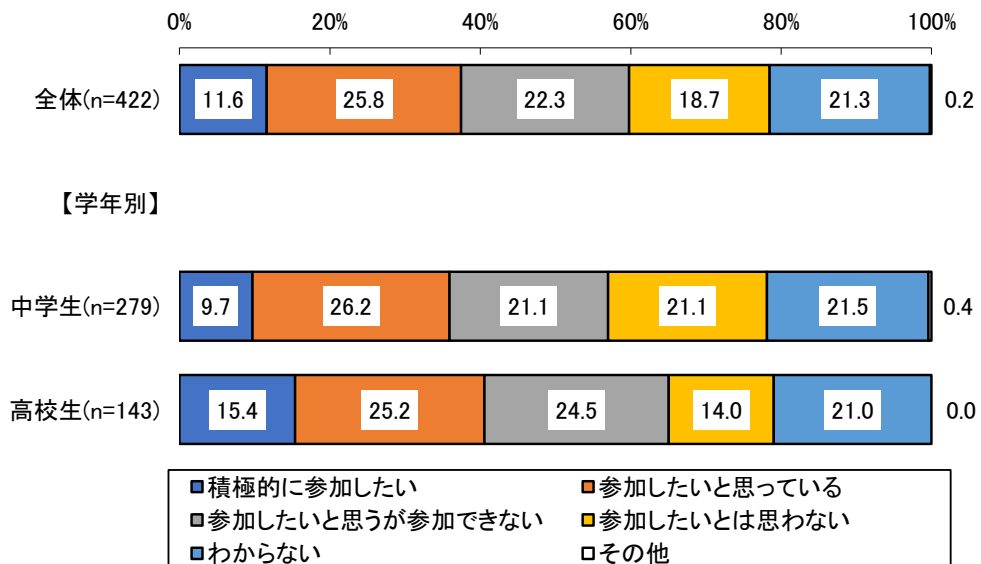
■生活環境がより良くなるために、特に重要だと思う項目



(5) まちづくりへの関心について (問15、問16)

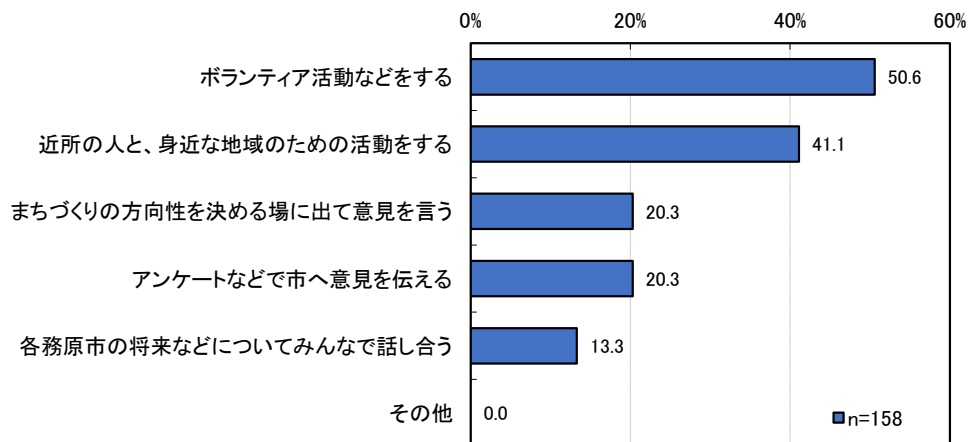
地域でのボランティア活動や、各務原市のまちをより良くする活動に参加したいと思うかについては、「積極的に参加したい」と「参加したいと思っている」を合わせた割合が、中学生は 35.9%、高校生は 40.6%となっています。

■地域でのボランティア活動や、各務原市のまちをより良くする活動に参加したいと思うか



どのような形で参加したいかについては、「ボランティア活動などをする」、「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が高い割合となっており、中高生にボランティア活動への参加意識が定着していることがうかがえます。

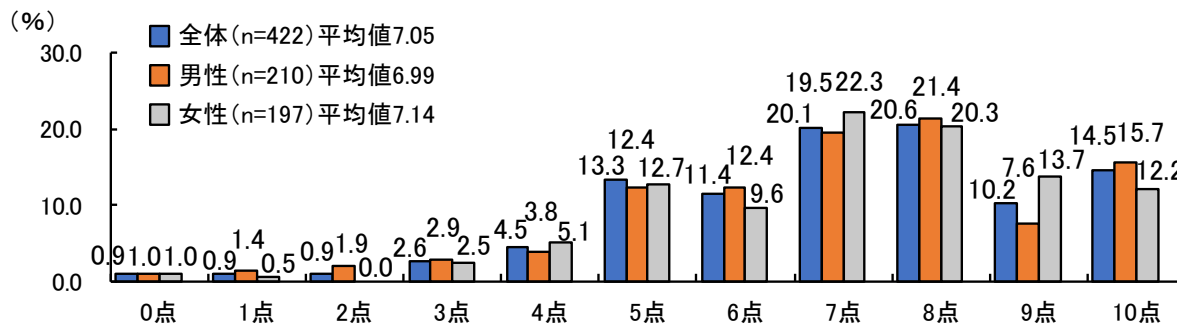
■ どのような形で参加したいか



(6) 幸福度について (問18～問20)

現在、どの程度幸せかについては、「8点」が最も高く、次いで「7点」、「10点」が続き、平均値は7.05となっています。また、男性は「8点」、女性は「7点」が最も高く、平均値は、男性よりも女性の方が高くなっています。

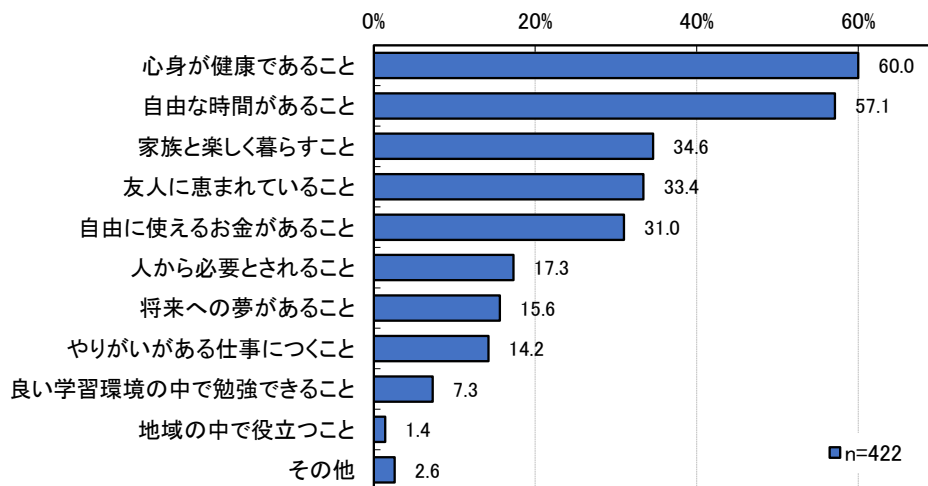
■ 現在、どの程度幸せか



幸せであるために重要だと思うことについては、「心身が健康であること」、「自由な時間があること」、「家族と楽しく暮らすこと」が高い割合となっています。

自分の将来が楽しみかについては、「まあまあ楽しみ」が最も高く、次いで「とても楽しみ」が続いています。また、「とても楽しみ」と「まあまあ楽しみ」を合わせた割合が、中学生では 73.1%、高校生では 62.3%となっています。

■ 幸せであるために重要だと思うこと



■ 自分の将来が楽しみか

